

平成25年度第2回愛知県海岸漂着物対策推進協議会 議事録

1. 開催日時

平成26年1月15日（水） 午前10時30分から正午まで

2. 場 所

愛知県自治センター 5階 研修室

3. 議 事

(1) 開会

(2) 議 題

ア 海岸漂着物に関する環境学習プログラムについて

資料1-1、1-2、1-3及び1-4に基づき、事務局より海岸漂着物に関する環境学習プログラムについて説明した。

質疑応答

発言者	発言概要
蒲郡市530運動推進協議会	小学生対象のプログラムには海岸清掃があるが、中学生以上向けのプログラムには海岸清掃がない。現場での清掃を実施した方が効果的。
事務局	中学生向けではモバイル作品を作るための素材集めをすることとしているが、このときに海岸清掃も実施することとしている。
宮崎町内会	海岸清掃があるので、現地での実施を想定していると思うが、特定の海岸を対象としているのか。
事務局	県内全域の海岸を対象としたいと考えている。 なお、来年度、県では、市町村やNPO向けのデモンストラクションとして、この環境学習プログラムのモデル事業を行いたいと考えている。そのときには、ここにいる皆様に協力をいただきたいと考えている。
座長	モデル事業を実施した結果を基に、プログラムを修正することはあり得るか。
事務局	あり得る。
環境活動推進課	教材で動物と書かれているが、イメージは鳥や蟹などがあるということなので「生きもの」と記載した方が良い。
事務局	御指摘を踏まえて表現を見直す。

発言者	発言概要
環境活動推進課	工場の箱が流れてくるという話があったが。どのようなものか。
事務局	プラスチックのパレットや、部品を入れる箱で、事業者名が書いてあるものが流れ着いている。
環境活動推進課	中学生以上向けのプログラムでつくるモビールは、飾りにできるようなものか、その場で作って遊ぶだけのイメージか。
事務局	持ち帰って飾りにもしてもらえることをイメージしている。
環境活動推進課	綺麗なものを作りたいという大人のニーズにも応えられたいと考えていいか。
事務局	貝殻や生きもの素材シートなどを使って綺麗なものを作ってもらっていただくこともできるし、海岸の現状を見て、汚れていることを表現していただくこともできる。
蒲郡市 530 運動推進協議会	参加人数が 20～30 名程度となっているが、小学生は親子参加が一般的なので、欲張ってもいけないが、もっと増やすことができるのではないかと。
事務局	学校の授業で使っていただくことを想定して、基本形として 20～30 名と記載した。親子参加になると指導員が見なくてはいけない範囲が狭くなるのが期待できるので、参加者を増やしてもいいかと考える。
事務局	上下流の繋がりを知ってもらうことが発生抑制では重要と考えている。今のプログラムの流れでは、ワークシートを実施した結果、繋がりに気づいてもらうことになっている。事務局内では、逆に上下流の繋がりを最初に伝えて、その意識を持った上で、プログラムを実施した方が効果があるのではないかと意見もある。普段、子どもたちと関わっている方のご意見を伺いたい。
環境活動推進課	環境学習事業で先生方の意見をいただくと、最初にワークシートを使って考えさせて、その後に教えてあげた方がいいと意見があった。
座長	最初に原理原則を言いたくなるが、最初に演習をやらせて考えさせ、その後伝えていく方が効果があるかと経験的に思う。

発言者	発言概要
田原市	自然観察会をやったことがあるが、子どもたちはビンゴゲームがあると真剣になるのでいいのかなと思う。紙では海だとどうしてもぼろぼろになってしまうので、ラミネートしたものにシールを貼っていく形がいいのでは。
事務局	ご意見を基に検討する。
美浜町	海岸を観光で使っているのに、オンシーズンとオフシーズンではごみの状況が違うという現状がある。観光シーズンでは常に綺麗にしたいという地元の意向があるので、シーズンによっても拾った内容が変わってくるのかと思う。
事務局	オンシーズンの時期はいつ頃か。
美浜町	6～8月。人が多く、環境学習は実施しにくいので、その点は考慮する必要がある。
座長	対象とする学生の地域はどこか。
事務局	全域を対象としているが、海の状況を知ってもらおう観点からは上中流地域の学生を対象にしたい。山側と海側が共同でできると子どもたちの繋がりもできていいかと思う。
座長	プラスチックのごみを減らすことについて、ワークシートでの答えはごみを出すなというところに結論がいつている。子どもからは、容器を何故たくさん作るのかという疑問が出てくる可能性もある。また、容器は回収できるようにすべきなどといった回答があるのでは。ものを作る側では、ごみになるようなものを作らないといった答えが、導き出せないかなと思った。
事務局	記入例は幅広に書いていきたい。また、幅広な回答がでてくるような工夫を検討する。また、プラスチック系のごみは分解されないなど、問題として大きい面があるので、補助教材を使った補足説明ができないか検討する。
蒲郡市 530 運動推進協議会	ワークシートの中の、田畑で働く農家のごみを減らすためにできることとして、「エコなもの（自然に分解される）を選ぶ。」とあるが、これは農業資材全般についてか。
事務局	自然に分解されるポットなどをイメージしている。使うものが自然に分解されるものにしていくという答えが導き出せればいいのかと考えている。
座長	ホームページについてだが、例えば「愛知県の海と漂着ごみ」というところをクリックしてもらえかが課題。授業であればクリックさせることはできるが。

発言者	発言概要
事務局	授業で使っていただけるとありがたいが、ホームページは作成したら記者発表するなど広く使っていただきたい。クリックしたい気になるようなネーミングやイラストを練っていく。
座長	楽しそうな写真など、自分もやってみたいなど思わせるような写真があるといい。

イ 河川におけるごみ状況調査について

資料2に基づき、事務局及び河川課より河川におけるごみ状況調査の内容について説明した。

質疑応答

発言者	発言概要
宮崎町内会	矢作川などの大河川が選定されていないが、大河川以外からも海に流れているのか。大河川の状況を抑えることが重要かと考える。
河川課	小さい河川からもいずれ流れていく。今回は、県の直轄河川を調査対象としている。
事務局	国土交通省が事務局をしている矢作川流域圏懇談会などと情報を共有して、データは広く集めていきたい。
座長	矢作川流域圏懇談会では矢作川の調査を実施しているので、情報は共有してもらいたい。小さな川のデータを集めることも意義がある。

ウ 海岸漂着物対策推進基金を活用した海岸漂着物の回収・処理事業の実施状況について

資料3に基づき、事務局及び各事業実施主体より今年度の海岸漂着物の回収・処理状況等について説明した。

各主体状況説明

発言者	発言概要
農地計画課	海岸漂着物の内訳は、流木5割、その他のごみが5割であり、その他のごみの量は9.1tであった。例年、予算の関係上、スポット的な対応しかできていなかったが、補助金のおかげで海岸全線の清掃をすることができた。
蒲郡市	形原地区は潮の流れで漂着物が集まりやすい地域。三谷

発言者	発言概要
	地区はアオサなどが多く集まる地区であり、市内でも状況が違う。
常滑市	6箇所清掃予定のうち、これまでに3箇所を実施した。昨年は台風の影響でかなり集まったが、今年は昨年より漂着物は多くなく、当初予定していたよりは少ない。台風の状況で量が上下するのが感想。地元の方々が清掃活動をしており、流木以外の細かいごみを清掃している。流木が残るため、市が集めた漂着物の割合では、流木が9割という結果となったと感じている。
田原市	観光シーズンはボランティア等により活発に清掃がなされていたので、2月頃に補助金を活用して実施する予定。
南知多町	グリーンニューディール基金で清掃活動を行ったが、現地を見ると、また流木が溜まってきている状況。継続的に補助金があるとありがたい。
美浜町	細かいごみは地元による清掃で拾われているため、町が実施した事業では、流木の割合が増えたと考えている。グリーンニューディール基金でも同様の清掃を実施したが、そのときよりはごみは少ない印象。
岡崎市	<p>岡崎市では海岸線はないが、三河湾に繋がる矢作川水系がある。1年に1～2回、住民の方と協働して矢作川の一斉清掃を実施しており、今年度は、この補助金を活用した。</p> <p>また、「海をきれいにしよう」、「ごみを捨てないようにしよう」というポスターコンクールを実施しており、この事業にも補助金を活用した。入賞作品でカレンダーを作成し、普及啓発を行っている。</p> <p>今後も、発生抑制の面で補助金を活用した事業について協力していきたい。</p>
環境省	この補助金は自治体の裁量を幅広く設定しているので、地域の実情に応じて、柔軟に、効率よく、積極的に活用していただきたい。細目については、要望に応じて使いやすいように改定していきたい。

エ 今後のスケジュールについて

資料4に基づき、事務局より今後のスケジュールについて説明した。

3 閉 会